

2005 年 1 月 19 日

センチネル 32J と PRIMEPOWER / PRIMERGY の 接続検証結果報告書

株式会社 昌新
技術部

1. 作業実施概要

Logical Solutions 社のシリアルコンソールサーバー『センチネル 32J』と PRIMEPOWER 250 (Solaris(TM) 8 OS 2/02) および PRIMERGY TX200 (RedHat Enterprise Linux ES(v.3 for x86)) との接続・動作確認を実施致しました。

2. 被検証装置

品名	型名	ファームウェア
センチネル 32J	SCS-003200J	2.05I



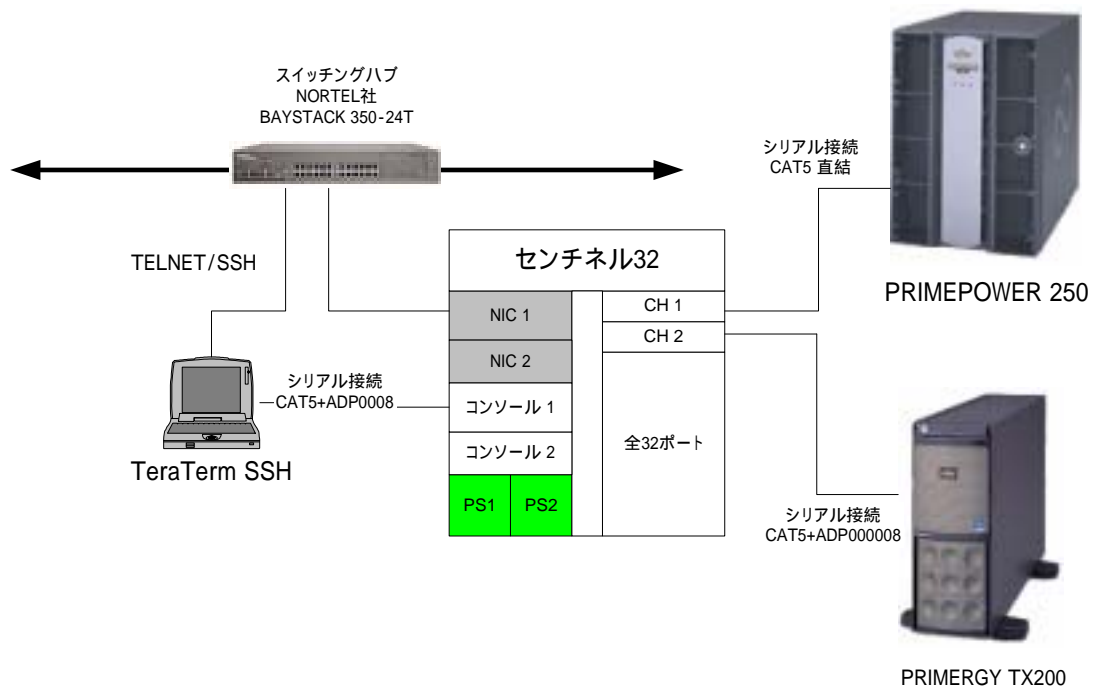
3. 作業期間

2004 年 12 月 13 日 14:00 ~ 20:00

4. 作業場所

FFC 新百合 21

5. 実施システム構成(概要)



1) PRIMEPOWER250 (Solaris 8 OS 2/02)

CPU : SPARC64V 1.1GHz

Mem : 4GB

Disk : 36GB x2

Op-Card : PW008FC2A x1 X6540A x1 X6541A x1 PGX64 x1

2) PRIMERGY TX200 (RedHat Enterprise Linux ES(v.3 for x86))

CPU Xeon3.06GHz(2CPU)

HDD 36GB×3(アレイ/RAID5)

備考 : 内蔵DAT72ユニット増設済

3) センチネル32J (M/N: SCS-003200J)

ファームウェアV 2.05I

6. 検証項目

- 1) TeraTerm を実行する Windows PC からシリアル, telnet および SSH によりコンソールサーバー『センチネル 32J』に接続できること.
- 2) PRIMEPOWER 250 の OpenBoot と Solaris のシリアルコンソール操作を支障無く行えること.
- 3) PRIMERGY TX200 の BIOS と Linux のシリアルコンソール操作を支障無く行えること.
- 4) 『センチネル 32J』の電源切った時に PRIMEPOWER250 の Solaris が停止しないこと.
- 5) PRIMERGY TX200/RedHat EnterPrise Linux ES(v.3 for x86) がパニック(意図的にクラッシュを発生させて対応)を起こしても, センチネル 32J に影響がないこと.

7. 検証結果

上記検証項目において, PRIMEPOWER250/Solaris 8 OS 2/02 および PRIMERGY TX200/RedHat EnterPrise Linux ES(v.3 for x86) のいずれも, コンソールサーバー『センチネル 32J』からコンソール操作を実施できることを確認いたしました.

8. 留意事項

シリアルコンソールから PRIMERGY TX200 の BIOS の操作を行う際は, ファンクションキーの代わりに ESC キーと数字キーの組み合わせを使用しました. これは PRIMERGY TX200 の BIOS の機能です.

9. お問い合わせ先

株式会社昌新
情報システム営業部 (担当: 桜井)
TEL: 03-3270-5926
E-mail: IS@shoshin.co.jp
URL: <http://www.shoshin.co.jp/c/lsi/scs/>

以上

